

第1学年 技術・家庭科〔家庭分野〕 学習指導案

日 時：令和4年11月10日 5時間目

対象学級：北上市立江釣子中学校 1年C組

指導者：高橋 千鶴子

1 題材名 豊かな衣生活を送ろう。B(4)

目的に応じた衣服の選択 ～つなげよう和服の文化～（開隆堂 p166～169）

2 題材の目標

- (1) 衣服と社会生活との関わり、目的に応じた着用、個性を生かす着用、衣服の適切な選択、衣服の計画的な活用の必要性、日常着の手入れについて理解するとともにそれに係る技能を身に付ける。
「知識・技能」
- (2) 衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につける。
「思考力、判断力、表現力等」
- (3) よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。
「学びに向かう力、人間性等」

3 題材について

(1) 生徒について

本学級の生徒は、これまでの家庭科の学習について、小学校の既習内容と関連付けながら学習を進めることができている。しかし、学習したことについて自分なりの考えをまとめることはできてはいるが、グループで共有したり、教え合ったりという活動があまりできなかったこともあり、それぞれの考えを深めるところまでは至っていない。また、自分の考えを相手に上手く伝えることができない生徒も多い。

事前調査では、本学級のみならず学年の傾向として、衣服の選択やコーディネートには興味がある一方で、「和服」については、関心が薄く、「和服からイメージされるものを具体的に挙げられない」「(和服を)持っていない・着たことがない」と回答した生徒の割合が7割を占め、生徒達にとって和服はあまり馴染みのないものであることが分かった。

そこで、本時では、グループ学習を取り入れるなど学習形態を工夫して、生徒の様々な考えを引き出し、衣服の選択や管理に加え、少しでも和服について興味関心をもたせ、日本の伝統的な文化のよさについて気付かせるようにしたい。

(2) 教材について

本題材は、衣食住の生活(4)衣服の選択と手入れア(ア)及びイを受けて設定したものであり、日本の伝統的な衣服である和服について触れ、基本的な着装を扱うこともできるとされている。

和服は、衣服の「社会生活上のはたらき」にも関わり、冠婚葬祭や儀式や地域の祭り等で着用されている。また旅館でも着用する機会があったり、本校でも例年行われている「芸能発表会」(3年間開催無し)で着用したりするなど、実は生徒にとっては身近なものである。和服は、「衣服のはたらき」の理解だけでなく、洋服と比較しながら学習することで、平面構造の良さに気付かせたり、生活文化の継承の視点で衣服の特徴を理解させたりするのに適している。

(3) 指導について

題材を通して、生徒が自分の考えをもち、自分の考えを伝えることで考えを広げたり深めたりできるように、学習形態を工夫していく。また、意図的に「つなぐ言葉」「戻す言葉」を用いて生徒に問い返すことにより、具体的に考えたり、根拠を持って伝えたりすることを意識させるようにしたい。

また、衣服の手入れに関する知識や技能については、実践的、体験的な学習を大切にし、確実な定着を図ることができるようにする。

本時の指導にあたっては、昨今では生徒達には馴染みの薄い和服だが、外国人には注目されている日本文化の一つである。そこで、和服を知らない外国人にもその良さを紹介できるように、和服と洋服の違いや特徴を考えさせる。今生徒が着用している洋服との違いについては、実物等資料を提示し考えさせるが、目的意識と他とのかかわり合いを重視し、「知識構成型ジグソー法」の形態をとる。グループ内で役割分担をして、キーワード毎の資料をもとに和服と洋服の違いを調べ、元のグループに戻り説明をする形態である。グループで説明できることが、自分自身の考えを確かなものにできると考えた。

そして、和服の特徴を確認した上で、外国人に和服の良さを伝える場合に、どんな良さを、どのような言葉を選んで伝えるかを個人で考えさせ本時のまとめとしたい。

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・衣服と社会生活との関わりがわかり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解している。 ・衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解していると同時に、適切にできる。 	衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択と手入れについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

5 指導と評価の計画（9時間）

題材全体の課題 「豊かな衣生活を送るためにできることを考える」

小題材	時間	主な学習活動	評価規準・評価方法 【評価方法】		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
目的に応じ	1	<ul style="list-style-type: none"> ○衣服の社会生活との関わりについて考える。 ・社会生活上のはたらきを知る。 ・T.P.Oを考えた服装 	<ul style="list-style-type: none"> ①衣服の社会生活上のはたらきを理解している。 【学習プリント、発表】 	<ul style="list-style-type: none"> ①衣服の選択について問題を見いだし課題を設定している。 	

た衣服選択	2	○自分らしい着方を工夫する。 ・コーディネートのポイントを知る。 ・色・デザイン・柄の効果 ・コーディネートを考える。	②個性を生かす着用や衣服の適切な選択について理解している。	②衣服の選択について考え、工夫している。 【学習プリント】	①衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ②衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方の仕方について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ③よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について工夫し、創造し、実践しようとしている。
日常着の手入れと保管	3 ・ 4	○自分の衣服計画 ・上手な衣服の選択 ・既制服の選び方を知る。 ・衣服の表示について知る。 ○衣服の補修の必要性 ・衣服の補修の必要性を考える。 ・まつり縫いの実習	③衣服の状態に応じた日常着の補修の仕方について理解しているとともに、適切にできる。 【実習布】	①衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について問題を見出して課題を設定している。 ②日常着の手入れの仕方について考え、工夫している。	
	5 ・ 6	○衣服の収納と保管 ・衣服の手入れの方法を知る。 ・洗剤の種類と洗濯の方法 ・シャツのアイロンかけ実習	④衣服の材料や汚れ方に応じた日常着の洗濯の仕方や材料に応じたアイロンのかけ方について理解しているとともに適切にできる。 【学習プリント】	③日常着の手入れの仕方について実践を評価したり、改善したりしている。 【学習プリント】	
目的に応じた衣服選択	7 本時 8	○つなげよう和服の文化 ・和服と洋服の違いや特徴を考える。 ・浴衣の着装を知る。	⑤和服と洋服の違いや特徴を理解している。 【学習プリント】	④生活文化の継承と衣服の選択について課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。 【学習プリント】	
持続可能な衣生活	9	○資源や環境に配慮した衣生活を考える。		④健康・快適で持続可能な生活を送るための課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。 【学習プリント】	

6 本時の指導（7時間目/全9時間）

(1) 目標 ○和服と洋服の構成の違いや特徴を説明することができる。(知識・技能)

(2) 評価基準

おおむね達成	未達成の生徒への支援・手立て
和服と洋服の違いや特徴についてのグループ学習で、担当した資料について調べた内容をまとめて、グループに説明するとともに、仲間の説明を理解しプリントにまとめることができる。	和服と洋服の違いや特徴についてのグループ学習では、他のメンバーと一緒に資料から見取ってまとめさせる。

(3) 指導構想（本校の研究主題とのかかわり）

本校の研究主題である「学びつづける力を育てる学習指導のあり方」の授業実践のために、学び方を「学びの型（学びのプロセスを授業に当てはめて具体的にしたもの）」として定義し、「主体的・対話的で深い学び」を授業改善の視点にし、質の高い学び、生涯にわたって主体的に学びつづけられる生徒の育成をめざして校内研究を推進している。

「学びのプロセス」を重視した授業で、生徒の力を育てたり高めたりすることをねらいとし、研究内容が各教科・領域等の教育計画や授業に生かされるように取り組んでいる。

その「学びのプロセス」は、以下のとおりである。

《学びのプロセス》

- ① 目的意識をもちながら課題に立ち向かう
- ② 解決までの道のりを見通し、解決方法を予想し、解決方法を学んだり選択したりする
- ③ 予想やモデル（やり方）を参考にして熟考したり、思考錯誤したりする
- ④ 他とのかかわりを通して課題解決する
- ⑤ 学習をふり返り、新たな課題に向かう

本時の学習内容は、普段あまり馴染みがあるとはいえない和服ではあるため、プロセス①で実は様々な場面で目にしたり、着用したりしていることを確認し、課題に取り組ませたいと考えた。

課題解決に向けて、生徒の実態を考え、プロセス④他とのかかわりを工夫した。和服と洋服の違いについて、グループの一人ひとりが各キーワードごとに分かれ資料をもとに考える→元のグループに戻ってそれを伝える→全体で共有したあと、良さをどう伝えるか個人で考えるという学習活動を行うことで、和服の良さを考えさせ、理解を深めさせたい。

(4) 展 開

段階	生徒の思考・学習過程	学 習 活 動	
	プロセス＝ [学びのプロセス]	生徒の活動（○主な発問等）	□指導上の留意点 ◆評価
導入 5分	1 振り返り	1 衣服の社会生活上のはたらきを想起させ、世界の民族衣装を知る。 ○日本の民族衣装は何か。	□慣習・伝統的的衣服から各国の民族衣装を紹介し興味・関心をもたせる。
	2 見通し確認 プロセス①② ★何を学ぶのか ★たぶん～だろう	2 アンケートから、自分たちの和服のイメージを共有する。 ○和服は着る機会が少ないのはなぜだろうか。	□（アンケート結果）着る機会が少ない和服だが江中には芸能発表会があることに触れる。 □外国人の人には注目されていることを紹介する。
	3 課題把握	3 学習課題を把握する。	□和服の特徴を知り、そこから良さを考え、和服を全く何も知らない人（外国人）に伝えるという立場で学習する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 本時の学習課題 外国の人に和服の良さを紹介しよう。 </div>		
展開 40分	4 モデル理解 プロセス②③ ★たぶん～だろう	4 課題解決にあたって ○和服の良さって何だろうか。	□資料（浴衣）
	5 かかわり合い プロセス③④ ★学びたい ★深めたい ★認められたい ★伝えたい	5 和服と洋服の違いを考える【ジグソー学習】 グループ学習で思考を深める。 キーワード 型紙 着装 環境 素材 (1) 型紙 を例にとって進め方を確認する。 (2) グループ学習① (3) グループ学習②	□机毎に資料を配布、今着用している洋服との違いを調べプリントに記入させる。 □①でわかったことを元のグループに戻り説明させる。◆知識・技能 【学習プリント、発表】
	6 課題解決	6 特徴を全体で共有しながら、和服の良さを考える。	□特徴→長所短所にもなっていることを確認する
終末 5分	7 まとめ	7 外国の人に和服の良さをどう伝えるか自分の言葉でまとめる。	□和服の特徴の中から、良さとして特に伝えたいことを考えさせる。
	8 振り返り プロセス⑤ ★何がわかったのか ★考えがどう変わったか	8 学習を振り返る。	□和服について、これまでの考えと学習後の考えを記述させる。 □和服の文化を継承することの大切を知らせる。
	9 次時予告	9 次時の学習内容を知る。	□浴衣の着方を知る。

